ぐちゅっ

ぐちゅっ

ぐちゅっ

んっ

JP

ぐちゅっ

の日
来、

実に
期待以上だ。

いいぞ。
もっと
耐えて、
私を
楽しませて
くれたまえ。

ぐぐぐ…

ぐっ…

お師匠さま！

ぴくっ

…！

お師匠さま！
言われた
修行、
終わり
ました！

ん？

あ…
ああ…
そうか？

もうそんな
時間か…

よく
頑張ったな…
フーフー。

…

あの…
お師匠さま。

ハニ

ん？

今日は
どこか
具合が
悪いんですか？

いや、
ただの
寝不足だ。

行って
休むといい。

なでなで

えへへ！
はい！

あの日以来、

んっ♥

んんっ♥

ぐちゅっ

ぐちゅっ

んっ♥

ぐちゅっ

ぐちゅっ

ぐちゅっ

ぐちゅっ

ぐちゅっ

私の日常は、
あの男の手に落ちた。

一日一度、
オナニーをしろという…

ぐちゅっ

ぐちゅっ

んっ…♥

んんっ…♥！

逆らうことも、助けを求めることもできず…

ぴくっ

ぴくっ

んっ♥

んぐっ…♥

そんな下劣な
命令に従う
毎日…

はぁ…♥

はぁ…♥

はぁ…♥

今日も…
イけ
なかった…

もう
一週間も…

…

ちらっ

ふむ…

私の許可
なしでは
絶頂できない
ように
してやろう。

ふむ…
少し厳し
すぎか…？

では、
助けになる
ものを
一つ
やろう。

これを使った時だけ絶頂できるようにしてやろう。

かちっ

君のために三日間穿き続けたパンツだ。

もわっ

くっ…

もわっ

大事に使いたまえ♥

悪趣味な…

ずりゅうっ～

そうだ、一度…一度だけイければいいのだから…

すっ

んっ♥！

びくっ

びくっ

びくっ

何だ…これは…

匂い…
くさ…い…

びくっ
びくっ
びくっ
ふぁん♥
んっ♥
ふはっ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥
びくっ

臭い…
のに…

気持ちいい…♡

んぉっ♥
ふぁんっ♥
んっ♥
びくっ
びくっ
びくっ
あっ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥

声を出しては
だめだ…

んぅぅっ♥
んふっ♥
びくっ
びくっ

弟子たちに
聞こえて
しまう…

指が
止まら
ないっ…！

ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥
ぐちゅっ♥

イク♡
イク♡
イク♡

ぬちゅ…
ぬちゅ…
ぬちゅ…

局長から
連絡が来た。

自分たちの
利益につながる
任務を
選び、

私を投入する。

任務の
待機中は
局長に
呼び出され、

あんっ♥
あっ♥
あっ♥

あぁんっ♥

んぐっ…んっ♥

教育という
名目で、
性欲のはけ口に
される。

はぁ…♡
はぁ…♡
はぁ…♡
君のおかげで流通網の構築に成功した。
褒美をやろう。
んあぁっ♡?
ウィィィン
あっ！♡
あっ♡
ぐちゅっ
ぐちゅっ
ぐちゅっ

ははは。

そう言うわりには、ずいぶんと締めつけてくるな？

気に入ったなら素直に…

そう言え！

パァン！

んんんっ♥…！

そう言われては止められんだろう？

ぐちゅっ

ぐちゅっ

んあっ♥

ぐちゅっ

んあっ♥

壊れるから…お願い…！

らめっ♥

やめっ…！

お尻いっ…！

ぴくっ

ぴくっ

ぴくっ

ぴくっ

ぴくっ

頼む…！

やめて…！

ふふふ。

ぐちゅっ

あんっ♥

ぐちゅっ

ぐちゅっ

す…すみません…でした…

だからお願い…止めてくだしゃい…！

馬鹿なのか、プライドが高いのか…

君は私に頼みごとができる立場ではないと…

おおおっ♥！

何度言えばわかる…！

パンパンパンパ

子種汁を
注いで
やるぞっ……！

んんんん♥

びくっ♥

びくっ

びくっ

びくっ

私に
できるのは…

どんっ

びくっ

君が望むなら
イかせて
やると
言っている
だろう。

びくっ

言いたまえ。

んっ…♥

くっ…
うっ…！♥

ふんっ…♥

びくっ

ぐちゅっ

ぐちゅっ

ぐちゅっ

ぐちゅっ

びくっ

反抗心を
見せる
ことだけ。

ガシッ

ガシッ

ガシッ♥

ぎゅぅ

ん？
イきたい？

イきたいの
だろう？

くっ…
うっ…

ぎゅぅ

ぎゅぅ

お…願い…
します…

イか…
せて…
ください…

あぁ♥
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
あっ♥
よくやった♡

ふ…え？♥
あ…？♥
すっ
びくっ
びくっ
また…！
いやいや。
びくっ
それさえも…

こういう
イき方
のほうが…
今の君には、
よほど
お似合いだと
思ってね。
とん
プシッ
プシッ
おおおお

そして、
とうとう…

お前…！

ここには
来ない約束
だっただろう…！

何が
問題かね。
君を管理する
者として、

讃頌会の教主を
討伐した功を
ねぎらいに
来たのだが。

く…
うっ…

ふざける…
な…！

弟子たちに
バレたら
どうする…！

この男は、
私の安息の
場にまで
踏み
込んできた。

そうだろう？

ん～～

ゆっくり

ゆっくり

だからこそ
防音の術も
使ったのだろう。

君の言うとおり弟子たちにバレて…

んっ…♥

どすっ

はぁっ…♥

自分の手で弟子たちを私に売り渡したくないのなら…

ちゃりっ

ちゃりっ

さっさと済ませるべきだろう？

かつ

かつ

お…あっ…♥

あ…

はぁー

はぁー

はぁー

何度も…私の中をかき回したモノ…

ふっ…♥

はぁー

うほっ…♥

あふっ…♥